

徳島が壊れていく

N07

とくしま
井戸端会議
おばちゃん連

2021年4月5日

おばちゃんは悲しい

遂に立ち上がる

アミ20億円 融資問題
市民オンブズマンが
住民監査請求をする

藍谷鋼一郎氏

2021年3月31日の
フェイスブックより

一年前の今頃は新しい市長の
誕生に「新しい風」を感じ
期待を抱いた市民は多かったはず
しかしそれが偽りの虚構であった
と気付いた市民や県民の落胆は
想像を絶する苦しみ、悲しみ。
途轍もない怒りへと変わる人
も多いのでは
彼女の言葉を信じて応援した
人々が不憫でならない。
市民の方々は未来の徳島に
期待して票じた訳で、独裁者の
誕生を切望していたはずがない
今更になって、彼女に投票したのか
後悔している人は多いはず

藍谷鋼一郎氏は

徳島出身 アリカ在住 大学教授

＜徳島新聞より＞

社説

あまりにも強引で唐突ではないか。
徳島市の阿波踊りを主催する阿波おどり実行委員会が突然解散し、実行委と結んでいた民間3社共同事業体との業務委託契約も一方的に解除した。実行委員長の内藤和子市長の意向を反映したものだ。

実行委の委員に解散を書面で諮ったのは発表の前日だったという。会合も開かずに決定した後、市長は「しっかりと責任を持てる運営体制を再構築する必要がある」などとする短いコメントを出しただけで、会

見も開かなかった。これで納得できるわけがない。実行委は資金が乏しく、赤字が発生した際の責任を負えないというのが、従来の市長の主張である。その根拠としたのが、新型コロナウイルス感染拡大で中止になった昨夏の阿波踊りを巡る、実行委事務局の市と事業体の対立だ。

事業体は開催準備に要した2100万円の費用分担と年間500万円の納付金免除を実行委に申し出たものの、市は「遠藤彰良前市政がつくった実行委の枠組みでは赤字補填できない」とし、これをねづけてきた。だが、この言い分は説得力に欠ける。

市議会の承認を得られれば赤字補填はできる。税金投入が認められないなら、阿波おどり振興基金を使う選択もある。市は「市民と議会に説明がつかない」と決めつけ、その努力をしなかっただけではないか。

驚くのは、事業体との契約解除の理由だ。事業体が契約上支払わなければならない500万円の納付金を納めないことなどが業務不履行に当たるとした。基本契約には「不可抗力の発生で事業体の損害・損失や増加費用が生じた場合は、実行委と事業体が協議

阿波おどり実行委

市長主導の強引な解散だ

の姿勢である。実行委事務局長の市経済部長が、徳島青年会議所選出の実行委副委員長に辞任を迫ったとされる一件もあった。

なぜ、そこまでして運営体制を変えようとするのか。昨年の市長選で支援してくれた阿波踊り関係者を含めた新たな体制をつくるのが狙いだとの見方が広がっている。

市長はどのような運営体制を考えているか、具体的に示すべきだ。既存の体制を否定し、壊すだけというのは乱暴過ぎる。

＜2021・4・2＞